



# えんじゅ

春日市立春日小学校  
校長室便り No.26  
令和3年3月16日  
文責：校長 福島

## 子供と教育の可能性を広げる



学校で1人1台タブレット端末を持つ時代になりました。教室にはタブレット保管庫が設置され、1つの文房具として使いこなすことが求められています。

右の写真は、3年生が端末の基本的な使い方や使うときの約束を学んでいる様子です。子供たちの理解はとても速いです。左の写真は、5年生が信頼される最上級生になるために6年生とZoomを使って交流している様子です。先輩からのアドバイスをしっかりと受け取り、リーダーとしての自覚を高めていきます。面と向かっての交流が制限される中、価値ある学習です。

2年生の教室では、算数教科書のQRコードを一人一人がタブレット端末で読み取り、学習の深化を図る授業が行われていました。

先日行ったお別れ集会は、体育館に全校児童が集まるのが難しい中、6年生と発表学年のみ体育館に集め、その他の学年はZoomを使ったライブ配信を教室の大型モニタで視聴しながら参加しました。一堂に会しなくても「つながった感」があり、あたたかい集会を行うことができました。

コロナ禍は今後も続いていく見通しです。保護者の皆様の来校を制限せざるを得ない中、ICTを使った子供の様子の配信も積極的に行っていきます。

## 先生の仕事 ～学習支援員～

3年生の家庭学習のチェックをします。3年生は1学級の児童数が40人と、一番多い学年です。三谷先生が家庭学習を見ることで、担任は子供と向き合う時間を確保することができています。

一人一人のノートをきめ細やかにチェックし、励ましのコメントを書いたり丸をつけたりすることで、ノートの字がていねいになる等、意欲的に家庭学習に取り組む子供が増えたと聞いています。やらされる家庭学習ではなく、自分のために進んで取り組む家庭学習でありたいものです。

